

とみえたり、この奥書をもて推はかるに、足利將軍の時代よりもてはやしたる事なるべし、

〔羅山文集五十五〕象戲圖式序

象戲圖式者、洛人宗桂及子宗古之所撰次也。○中宗桂嘗作象戲圖式一卷、以教徒弟廣行諸世、而今

大君幕下、治教休明、勤政之暇、御覽象戲、凡其相對者、宗桂宗古雖少一馬、而無不勝、宗桂沒後、宗古頃

補其圖式、以爲續卷。○中今此圖式、父作之子述之、其箕裘之間、殊絕古人、誠國手無雙也、上自營內諸

臣及列國達官、下至好事之人、皆迎取而窺伺傲慕之、其名藉甚、益揚家業、可謂勤矣、

〔象戲綱目隊一伍〕此卷は、いにしへ今の駒ぐみを去るす、その圖むかしより傳へ來るといへども、或

は數すくなくして事みたず、又は混雜して知えがたし、今こゝに對馬七しなの馬法、まなぐの

ことなるをあつめ、又香車おち、左右のわかち、角おち、飛おちより、一枚半、ならびに兩馬おちの口

授にいたるまで、つぶさにあらはしいです。○下

〔象戲訓〕是一卷者、繼、蜷川新右衛門傳、而今號、蜷川流、子○原正於其過不及、鑑象戲好惡、名謂將基訓、

〔浚明院殿御實紀附錄三〕御晚年○德川にいたりて、閑暇の御遊戯には、常に象棋をなされけり、そ

の業の者にては、伊藤宗印、宗鑑、大橋印壽をめて、對手とせらる、御穎敏にまし、けるゆゑ、ほ

どなく奥儀をきはめつくし玉ふ、後には詰物といふ書をさへあらはし玉へり、詰物といへるは、

老成堪能にいたらざれば、著しがたきを、わづか一二年の間に、えらみ玉ひしかば、その職の者ど

も、おそれ奉れりとぞ、その書なりて、名をば成島忠八郎和鼎に命せられしかば、象棋致格とし

て奉り、今も御文庫に現存せり、

○按ズルニ、將基書ハ此他尙ホ少カラズ今多ク省略ニ從フ、

〔類聚名物考人事七〕象碁倒せうぎたほし

小兒の遊戯に、局の上に駒を立ならべて、末の一ツをたほせば、みなつれてはらくとたほる、

雜載